

『伊勢物語』『東下り』（読解）

昔、男ありけり。その男、A身をえうなきものに思ひなして、京にはあらず、①東の方に住むべき国求めにとて行きけり。もとより友とする人、ひとりふたりして行きけり。B道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。そこを八橋といひけるは、水行く河の蜘蛛手なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋といひける。その沢のほとりの木の陰に②下りゐて、乾飯食ひけり。その沢にかきつばたCいとおもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「③かきつばたといふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心をよめ。」と言ひければ、よめる。

④唐衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ
とよめりければ、みな人、乾飯の上に涙落として、⑤ほとびにけり。

行き行きて、駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入らむとする道は、いと暗う細きに、蔦・楓は茂り、もの心細く、Dすずるなるめを見ることと思ふに、修行者会ひたり。「かかる道は、いかでかいまする。」と言ふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。

⑥駿河なる宇津の山べのうつつにも夢にも人にあはぬなりけり
富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降り。

⑦時知らぬ山は富士の嶺いっとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ
その山は、⑧ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ね上げたらむほどして、なりは塩尻のやうになむありける。

なほ行き行きて、武蔵の国と下つ総の国との中に、いと大きな河あり。それをすみだ河といふ。その河のほとりに群れゐて、思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかなとわび合へるに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて渡らむとするに、みな人ものわびしくて、E京に思ふ人なきにしもあらず。さる折しも、白き鳥の嘴と脚と赤き、⑨鳴の大ききなる、水の上に遊びつつ、魚を食ふ。京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ都鳥。」と言ふを聞きて、

E名にし負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人は⑩ありやなしやと
とよめりければ、舟こぞりて泣きにけり。

問一 傍線部A～Fの現代語訳を答えなさい。

問二 傍線部①とあるが、なぜ「東の方」に行ったと考えられるか。最も適当なものを選びなさい。

ア 京では生きる意味を見出せないと思ったから。

イ 退屈な日常を捨て、冒険したかったから。

ウ 仕事で失敗して、人間関係もリセットしたいから。

エ 殺人を犯し、遠くに逃げたかったから。

オ 夢の中で神様からのお告げを受けたから。

問三 傍線部②とあるが、何から「下り」と考えられるか。漢字一字で答えなさい。

問四 傍線部③とあるが、このような技巧を何というか。漢字二字で答えなさい。

問五 傍線部④「唐衣……」の歌の主題は何か。最も適当なものを選びなさい。

ア 諧謔 イ 旅愁 ウ 失恋 エ 逃避 オ 風流

問六 傍線部⑤とあるが、なぜ乾飯は「ほとび」としまったのか。最も適当なものを選ぶなさい。

ア 川の水につけていたから。 イ 湿気にやられてしまったから。

ウ 汗がにじみでいたから。 エ 雨に濡れてしまったから。

オ たくさんの涙がかかったから。

問七 傍線部⑥の歌について、次の問に答えなさい。

(i)「駿河なる宇津の山べの」は「うつつ」を導き出す修辞技巧である。この技巧を何というか。漢字二字で答えなさい。

- (ii) この歌に詠まれた心情として最も適当なものを選びなさい。
- ア 恋人が他の人に気持ちを移していることへの悲しみ。
- イ 恋人に会っていた日々を思い出す懐かしい気持ち。
- ウ 恋人が自分を思ってくれないと恨めしく思う気持ち。
- エ 恋人と離ればなれになったが、気持ちを切り替えようとする気持ち。
- オ 恋人が夢の中に出てきてくれたことに対する歓喜。
- 問八 傍線部⑦とあるが、富士山に対してこのように思ったのはなぜか。該当する箇所を十八字で抜き出し、始めの五文字を答えなさい。
- 問九 傍線部⑧とあるが、どこのことか。漢字一字で答えなさい。
- 問十 傍線部⑨とあるが、省略されている語を一語で答えなさい。
- 問十一 傍線部⑩とあるが、その意味として最も適当なものを選びなさい。
- ア 所在 イ 無事 ウ 配置 エ 現実 オ 所有

問一

F	E	D	C	B	A

問二（	問三（	問四（	）
問五（	問六（	）	
問七 i（	）	ii（	）
問八（	）	）	）
問九（	）		
問十（	）		
問十一（	）		

(解答)

問一

A	わが身を何の役にも立たないものだと思い込んで
B	道を知っている人
C	たいそう美しく
D	思いがけないつらい目
E	京に恋しい人がいないわけでもない
F	都という言葉の名として持っているのなら

問二（ア）	問三（馬）	問四（折句）
問五（イ）	問六（オ）	
問七 i（序詞）	ii（ウ）	
問八（五）（月）（の）（つ）（ご）		
問九（京） or（都）		
問十（鳥）		
問十一（イ）		